

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第22号
2013年6月発行



「つながり∞ふくしまプロジェクト」
施設の屋上でご利用者と一緒にひまわりの苗を植えました！（青嵐荘ケア・アシスタンス）

もくじ CONTENTS

これからの活役に期待！

・・・ 2

次世代育成行動計画 ・・・ 3
～認定を目指して～

委員会トピックス ・・・ 3
医療・衛生委員会

高齢者施設トピックス

・・・ 4

青嵐荘養護老人ホーム
青嵐荘ケア・アシスタンス
青嵐荘特別養護老人ホーム



芳香会の国際化 ・・・ 5

子ども達の国際化
NIPPONの「おもてなし」
福祉を世界の架け橋に

芳香会活動報告 ・・・ 6

芳香会スケジュール ・・・ 6

編集後記 ・・・ 6

2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

これから活役に期待!

役付職員研修会・リーダー研修会

役付職員研修会&リーダー研修会を行って

日本能率協会講師 永國 幹生 様

芳香会さんよりご依頼をいただき、職員向け研修会の講師を担当しました。

法人運営の健全性をチェックする際の指標として、CS（シーエス…利用者や顧客の満足度）とES（イーエス…勤めている人の満足度）と呼ばれるものがあります。私は、法人がCSとESを高めるためには、その前提として学習する風土が必要だと考えています。今回芳香会さんが研修会を開催した事は、この点においてとても重要な意味を持つと思います。

学習といっても今回の対象者は子供ではなく「大人」です。それも法人内でリーダー的役割を担っている、もしくは今後その役割を期待されている「経験豊富な大人」です。「大人の学習」を研究している東京大学の中原氏は著書の中で、「大人の学習者は自律的である」と述べています。ここでいう自律的とは「あれしなさい。これを覚えなさい。」と教師に言われ受身で勉強するのではなく、自ら考えて学ぶ、そしてその行為自体に面白さを感じるということ。また中原氏は「大人の学習者には豊富な人生経験がある」とも述べています。今回の研修会には、さまざまな施設から多数の職員さんが参加しました。得意分野が違っても互いにとって貴重な学習材料となります。今回の研修会は、そのような要素を組み入れ「参加者が自ら考え、発言し、そして他者の考えに耳を傾ける」といった参画型の内容で構成しました。研修が始まった直後は皆さん緊張した面持ちでしたが、だんだん表情がほぐれにこやかになってきました。まさに「自律的」に学ぶことを楽しんでいるようでした。さらに時間が進み、今度は表情が引き締まってきました。「自分の経験」と「他者の経験」を融合させ新しい視点や方法を真剣に検討している表情です。職員の皆さんのこのような変化は、人と法人の可能性を強く感じさせてくれます。

研修会での学習は法人をより良くすることに活かされ、最終的にはサービス向上というカタチで利用者の方々に還元されるでしょう（CS向上の側面）。また、もうひとつの大事な側面として、「学習した、新しい視点を発見した」という参加者の実感は、自己の肉体的な充実につながっていくでしょう（ES向上の側面）。利用者から愛され、そして職員からも愛される芳香会として、今後も「学習する法人」であり続けていいただきたいと願っております。

職員指導者の立場から

やる気に満ちたリーダーたち

芳香会病院青嵐荘療育園 瀬下看護師長

研修を終え業務についた顔は、目が輝きやる気に満ちていました。研修の成果を組織に生かそうと、自己分析を取り入れ、不足部分を把握することで課題者面接に効果をあげました。また、一人一人の成長を見ると、「手帳を持つことでスケジュール管理をし、計画性が身についた」「自分の仕事だけではなく、全体を見る力が備わった」「相手の話を最後まで聞き、意見を出すようになった」この事は、先ず自分を理解し他者理解に努めた成果であると感じました。今後も、成長し続けて欲しいと思います。



参加者の立場から

青嵐荘特別養護老人ホーム 坂場課長

役付職員研修会へ参加させて頂きました。

目的は①日本能率協会永國氏の講義を受け大職務能力を学ぶ事、②三日目の『気がきく社員』の仕事術の講師を務める事、③参加者との交流を図る事でした。①は管理力・改善力・企画力・表現力・傾聴力・説得力の六つを言います。特に企画力については時間をかけ演習・プレゼン等も学びました。傾聴力は「真意を汲み取る能力」、鍛えれば上げられる。私自身はというと主観が入ってしまい、真に傾聴する難しさを痛感しました。

研修復命として講師も担当しました。本来の内容を半分に凝縮し、且つ不慣れな為、上手く伝わったかは疑問ですが、他者へどうすれば伝わるか、効率よく進める為の方法などを考え、準備段階から勉強になったと感じています。



芳香会病院青嵐荘療育園 片野看護師

研修後の自分の変化というと、自分・他者理解について努力するようになった事です。自分の特性を理解することで人の多様性を理解し、



他者に働きかける時の対応について学びました。実際の現場で自分の長所・短所の効率が上がったと感じています。今後も研修での学びを深め、経験を積み、リーダーとして成長していきたいと思っています。

次世代育成行動計画 くるみんマーク 認定を目指して

平成二十一年三月発行の「せいらんそう」第九号で掲載した「当法人の次世代育成行動計画」は、次世代法の期限が近付いてきたことから、計画期間の一年延長を行い、くるみんマーク取得を目指す事となりました。今年度は、これらの目標を達成し、より子育てしながら働きやすい環境作りに努力してまいります。

- 目標1 事業所内託児所の設置・運営
- 目標2 育児休業や産前産後休業等の諸制度周知
- 目標3 年次有給休暇の取得の促進
- 目標4 若年者の就業体験機会の提供・雇入促進
- 目標5 【ノーマル業】の設定・促進



次世代育成行動計画でも目標としていますように、上大野地区と結城・尾崎地区の二つの事業所内託児所の運営も行っています。利用職員にインタビューを行いましたので、一部抜粋してご報告いたします。

Q. 託児所を利用した切り掛けは？

産後、早期復帰を希望しており地元保育園も検討しましたが、託児所を利用している職員から「何かあったらすぐに様子を見に行けるから良いよ」と勧められ、休憩時間に授乳が出来ることもあり、お世話になることに決めました。

ケアH栄養士(女性)

私がまだ独身で働いていた頃から託児所があったので、産後もそこに預けて仕事を続けるつもりでした。

ケアー介護員(女性)

Q. お子さんの様子はとうですか？

はじめは託児所の玄関先で泣いてしまっていたが、今では楽しみに利用しています。

特養 F相談員(男性)

Q. 配偶者や両親から、意見はありましたか？

子どもを職場で預かってもらえるのは、共働きする上で必要な事で大変ありがたいと思っています。給食を実施しているのも助かっています。

療養園 D事務員(男性)

Q. ご感想やご意見はありますか？

託児所のお蔭で子育てができ、その分仕事を頑張ろうとモチベーションが上がりました。働くママにとって心から感謝しています。

ケアー介護員(女性)

対応も良く、細かな変化に気付いて連絡を頂け、助かっています。今後ともよろしくお願いします。

特養 F相談員(男性)

保育の様子



家族旅行の様子

託児所の子ども達へ



託児所のクリスマス

過去5年間の産休・育休取得者数&託児所登録児童数

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
上大野	産前産後休暇	なし	4名	2名	4名	5名
	育児休業	なし	4名	2名	3名	5名
結城・尾崎地区	産前産後休暇	5名	なし	1名	3名	1名
	育児休業	5名	なし	1名	3名	1名
託児所登録児童数	ひばり(上大野)	11名	19名	20名	22名	27名
	ツグミ(結城・尾崎)	-	1名	10名	11名	12名

医療・衛生委員会トピックス

医療・衛生改善委員会とは、芳香会内の医療職を中心に構成され、衛生管理や健康指導を行っています。今回の委員会トピックスでは、芳香会病院青嵐荘療育園の施設長であり、医師でもある中島施設長に活動を紹介頂きます。

平成二十一年度より発足した医療・衛生改善委員会の委員長を務めさせて頂いている中島です。この委員会は法人内各事業所より医師、看護師、栄養士、事務などの様々な職種がメンバーとなり、現在九名の委員で運営しております。年三回の会議では、各施設の感染症流行状態の報告や、インフルエンザワクチンの数量確認、感染予防策に関する情報交換などを行っています。これまでに、『法人内の職員検診項目の統一化』や『共通の腰痛問診票の作成』、『感染予防ポスターの作成』などを行い、法人内施設の医療・衛生情報の共有化を図ってまいりました。

現在、法人内の全職員がきちんと自分で健康管理を行える職員になれるよう、指導用の資料を作成しているところです。今後、法人内施設の全てが更に衛生的で健康的な職場になれるよう、メンバー一同頑張りますので、よろしく願い申し上げます。

医療・衛生改善委員長
芳香会病院青嵐荘療育園 施設長 中島亜希子



高齢者施設トピックス



職人技お見せします！

青嵐荘養護老人ホーム

養護老人ホームではリサイクル活動の一つとして牛乳パックを再利用する「紙漉き」を行っています。これは外での作業が難しい方でも施設内でできる活動として取り入れたものです。

紙漉きは、牛乳パックをちぎり、水に浸けたものをミキサーで細かくし、型枠で漉くという流れで行い、工程ごとに役割を分担して八名の方が活動しています。実際にやってみると意外と難しいもので、手先の微妙な加減



で紙の厚さにムラがでたり、破れたりしてしまいます。一緒に試行錯誤を繰り返して、今では色付きの紙で封筒・葉書の作成や掲示物などを印刷する紙として活用できる品質のよいものを作れるまでになり、その出来栄えに「職人」のみなさんの満足な笑顔がみられています。

この紙漉きを通して、生活の中に日課と役割が定着し、自発的に活動に取り組まれる姿がみられるようになりました。自分達が作った紙が封筒などの見える形になり、利用されることも活動へ参加する意欲につながっているのではないかと思います。リサイクル活動を通しての生きがい支援、工夫をしながら細く長く継続していきたいと思っています。



笑いがいちばん！

青嵐荘ケア・アシスタンス

青嵐荘ケア・アシスタンスでは、地域住民のみなさまから随時ボランティアや慰問などのご協力をいただいております。

去る平成二十五年五月二十九日、古河市在住の杉森勲男様と永田トキ子様にご来荘いただき、当施設にて演芸ボランティアによるイベントを開催しました。

イベントでは、三味線・尺八・ピアノの演奏や踊り、歌謡など数々の演目をご披露いただきました。その中でも、杉森様が披露した『ひとりデュエット』や永田様の『バスガイド風歌謡ショー』では会場が大きな盛り上がりを見せました。

当日は、当施設ご利用のみなさまを始め、青嵐荘療護園ご利用のみなさまにもご来場いただき、総勢六十名近くの方が楽しいひと時を過ごされました。見学者からは「感動した」「また来てほしい」など多くの喜びの声がありました。また、杉森様からは「大勢の前で披露することができてやりがいがありました。」とお声をいただきました。

当施設では今後もこのような機会を通じて、地域のみなさまとの交流を広げて参りたいと思いますので、お気軽にお問合せいただきますようお願い申し上げます。



一人で悩まないで

青嵐荘特別養護老人ホーム

平成二十五年三月九日、家族介護教室「認知症の理解」を開催しました。内容は、認知症の方を介護している方の体験から認知症について学ぶというものです。今回は「認知症の人と家族の会」（茨城支部）会員のH様と、会の世話人Y様から講話

をいただきました。H様は現在もご家族で認知症の母親の介護をされています。H様からは、認知症という病気で変わっていく母親に対する家族の思い、そんな中でも母親を理解するために母親の育ってきた時代背景や環境を理解する家族の努力が語られました。介護をしていく中では、介護者がリフレッシュしていないとつい怒ってしまうことがあるため意図的に自分の時間を持つようにしていること、認知症特有の行動や言動に対する対応については、介護する時間の経過と共に介護する側が成長し、それにより母親への対応も変わったという体験が語られました。世話人Y様からは「認知症の人と家族の会」の設立趣旨、活動内容の説明をいただきました。ぜひ認知症の方を介護している方には、会の活動を知ってもらい、同じ悩みを抱える仲間と情報交換したり、会員でなくても相談をすることができると案内いただきました。非常に貴重な話を聞く機会とすることが出来ました。



芳香会の「国際化」

芳香会では、ご利用者、職員に少しずつ外国籍を持つ方が増えてきています。今後日本全体として国際化が進む中で、社会福祉法人としての『国際化』に取り組んでいきます。

子ども達の国際化



現在、法人内二保育所（たま・牛ヶ谷保育園）が所在する結城市・古河市ではそれぞれ千五百から二千人を超える外国人が居住しており、二保育所には外国籍を持つ保護者の子どもたちが通っており、卒園まで在籍する方は少ない傾向にあります。

改めて過去を振り返ってみても毎年度数名の子どもたちが在籍しています。ただし、卒園まで在籍する方は少ない傾向にあります。保護者の方の状況は、ご両親が外国籍というは稀で、どちらかが日本人である場合が殆どです。また一人親家庭の場合は過去五年間、すべて母子となりました。そういった環境の子どもたちをお預かりしてきた中で感じるのは、外国籍の保護者の方とのコミュニケーションの重要性です。その方が日本の習慣や保育園をどれ位理解されているかによって異なりますが、まず説明に工夫が必要だということです。例えば書面で伝える場合、文字をローマ字やひらがな表記にします。言語の場合は、細かなニュアンスや仕組みを伝えることが難しく、可能な限り絵やジェスチャー等で説明するなど工夫しています。一方子どもたちは大体が保育園の生活に馴染めており、ご両親が外国籍で二歳

からお預かりした子などは全く話せなかった日本語（単語）が話せるようになります。改めて環境の力を感じます。



平成二十五年五月八日に

古河中央ロータリークラブからのご依頼で、米国の方々五名が療育園と療護園の施設見学に来られました。訪日した米国の方々は茨城県内のロータリークラブを通し、日本に一カ月間滞在をしております。訪日した方々には、日本語は通じません。そんな中、三年前からEPA介護福祉士候補生として就労をしているジョアンさんとジェイミーさんが大活躍です。滞在期間中の二日間の通訳を行いました。芳香会の施設見学案内はもちろん、日本語と英語で表記したパンフレットも作成しました。来園された五人の中には、福祉・医療の仕事に携わる方もいて、日本の福祉に大変興味を持たれていました。見学後お土産として、利用者が作成した和紙の封筒と、ミサンガをプレゼントしました。施設見学時やプレゼントに「It's Great!!」と言いながら涙を流して喜んで頂けました。

外国籍を持つ保護者の子どもたち(在籍状況)

	国名	H20	H21	H22	H23	H24	H25
たま	バングラデシュ人民共和国 パキスタン・イスラム共和国	6	5	4	5	4	3
牛ヶ谷	モロッコ王国 / 中華人民共和国 フィリピン共和国 / タイ王国	1	1	1	2	2	1
	計	7	6	5	7	6	4

福祉を世界の架け橋に



見学をされる方々へ「私たちの仕事」をより良く理解して頂くためには、丁寧な準備があつてこそ「おもてなし」となるものだ、今後の仕事にも大変に役立つ勉強をさせて頂きました。

EPAに基づき来日した介護福祉士候補生を募集している茨城県内の五つの社会福祉法人が集まり、連絡協議会を設立しました。その設立の記念式典を五月二十日につくば研究支援センターにて開催致しました。会設立の目的の一つは、施設間での情報の共有を行い、候補生のより良い受入れ体制の構築を図ること、二つ目は候補生同士の交流の機会を設け、日本での生活への定着に繋げることです。記念式典参加者六十人程の中には、受入れをしていない法人の方もおり、外国人との協働について検討している様子も見られました。候補生等から直接話を聞く機会を設けることも会として大きな意味があり、本人達の自信にも繋がるものでした。

日本の福祉業界も、候補生との協働を通して得るものも多く、一方候補生には介護福祉士の取得を目指すし、日本の福祉の知識や技術を学ぶことが出来ます。いずれ母国に戻ったとしても、日本で得た知識や技術を生かして頂くことで、日本の福祉が世界の地域に適応しながら広がっていくことでしょ。未来の福祉を思い描き、連絡協議会は細く長く貢献していききたいと思います。

*EPA II 経済連携協定



芳香会活動報告

芳香会社会福祉研究所から



芳香会社会福祉研究所は、平成二十三年四月に「自らの力で芳香会の新しい役割をあるべき姿を描き出し、実行できるようにすること」、「研究の成果を広く世に問うことによって、社会の安定やひとりひとりの幸福達成のために寄与すること」の二つを目的に開設されました。



開設二年目を迎えた平成二十四年度は、二つの研究事業を行ってきました。特にコミュニティ・エンパワメント研究では、助成金をいただき「多世代コミュニティ共創システム構築に向けた社会福祉法人の役割」というテーマで、筑波大学大学院・安梅勅江教授の研究室と共同で行ってきました。二カ年の助成研究であるため、今年度も引き続き調査・分析等を継続しております。

また、前年度の研究事業のまとめとして、「日本社会福祉学会」「社会福祉士学会」の二つの学会で発表を行いました。

いま社会福祉法人は、主体的な意思決定とそれに基づく事業展開を行う組織への再構築を求められております。研究所開設の目的を遂げ、時代のニーズに応えられる社会福祉法人へと進化できるよう、真摯に研究活動を継続していきます。

芳香会社会福祉研究所 研究主幹 酒寄学



環境保全茨城県民会議 ほう賞受賞 青嵐荘クリーン・グリーン作戦

去る平成二十五年四月二十五日、芳香会の結城地区で行っている環境美化活動「青嵐荘クリーン・グリーン作戦」が、環境保全茨城県民会議団体の部において、ほう賞を頂きました。この活動は、平成二十年度から開始して五年目になり、現在では地元結城市との環境美化パートナーシップ事業として様々な方々との連携により成り立っています。

今年度も年二回の活動を予定しており、その第一回目を六月八日に実施しました。活動には職員その他、近隣自治会や企業等、約百七十名の方に参加頂きました。ご協力を感じ謝致しますと共に、この活動が個々の環境美化意識の高揚に貢献できれば幸いです。



芳香会スケジュール

七月 一日	リハ専門職被災地支援活動
七月 五日	（岩手県大槌町）…第二陣
七月 二日	茨城県保健福祉部実地検査
七月 八・九日	上大野地区合同学習会
七月 十三日	牛ヶ谷保育園夏祭り
七月 十九日	苦情受付体制委員会研修会
七月 二十七日	結城地区合同夏祭り
七月 二十九日	苦情受付体制研修会
七月 二十九日	リハ専門職被災地支援活動
八月 二日	（岩手県大槌町）…第三陣
八月 十日	上大野地区夏祭り

編集後記

気づわしい数カ月が過ぎました。気づいてみると様々な人との出会いがありました。異業種の方々は、名刺交換から緊張し自己PRの不慣れさに落ち込んでしまします。ベイスの異なりから「雑談力」の有無も問われ良い勉強になりました。

（光）

母親が転倒し怪我をしました。まだまだ若いと思ってましたが、母親の年を感じるとともに、自らも年を重ねていることを痛感した出来事です。出来ることから親孝行、まずは元気な姿で帰省、そしてもちろん次世代育成も目指します。

（加）

これまで子供達のクラスにも外国人の子供達が出たのを思い出しました。あまり日本語を話せなくても仲良く遊んでおり、国同士の争いなど想像できません。世界中での多文化共生が現実になる事を願っています。

（房）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。